

生活支援体制づくり協議体会議（地域包括支援センターしんぱら
担当圏域レベル）開催報告書

1 開催日時	令和 8 年 2 月 27 日（金） 13 時 30 分 ～ 15 時 00 分
2 開催場所	浜松市ふれあい交流センター浜北 2階大会議室
3 参加者	19名（委員14名、事務局3名、関係機関2名）
4 協議の内容	<p>1.開会 2.会長あいさつ 3.議事</p> <p>(1) 令和7年度生活支援体制づくり協議体 分科会報告について</p> <p>①【浜名地区の委員より説明】 内容別紙（分科会報告資料）→報告資料説明</p> <p>②【亀玉地区の委員より説明】 内容別紙（分科会報告資料）→報告資料説明</p> <p>(委員)</p> <p>亀玉地区の家事支援の会では、毎回新しい人が申し込むというよりはリピーターが多い。そうすると支援員も偏ってしまう。そういう点から見ると、買い物支援があることで、支援員で全く支援に関わることがないという人はほとんどいない状況である。せっかく登録したのにやることがないということは亀玉地区ではなくなっている。しかし、支援員の年齢が高くなってきているため新しい人に加わってもらいたいと思って手を尽くしているが、思っている程には増えていない。もう少し頑張る必要がある。</p> <p>子どもの居場所の来客数について勝手に推計しているのではなく、店主から見て1日この程度は来ているということで計算している。</p> <p>(委員)</p> <p>浜名地区の補足。高齢者の一人暮らしのお宅でゴミ出しや話し相手、家具の移動等の支援をしていた方がいた。それを知った疎遠だった子たちが、「地域がこんなに面倒をみているのに自分たちがこれではいけない」と関係が戻りつつあるという話を運営委員から聞いた。そういったお役にも立てているのだと、ありがたく思った。はまな家事支援の会は現在89名の登録があるが、そのうち20名程が何も活動をしていないということが分かった。その方たちにもアプローチをして何かしら関わってもらえると良いと考えている。</p> <p>(委員)</p> <p>最近買い物支援に来ていた1人の方が自宅で倒れ、近所の買い物に来ていた方が発見し、救急車を呼んでくれて事なきを得た。その方は最終的に子どものところへ行くことになった。買い物支援でお互いに顔を合わせていることで、たまたま今週買い物に来なかったから様子を見に行こうということにつながったと思う。小さなエピソードからこのようなことにつながるため、毎日の活動が大事だと改めて感じた。</p>

(行政)

前回の会議で、地域の移動について非常に熱心で切実なご意見をいただきありがとうございました。課内で情報共有、意見交換を行った中で2点お伝えしたいことがある。

1点目は、前回皆様から縦割りではなく行政においても十分に検討してほしいというご要望があった。これについては、関係部署において総合的なプロジェクトが進められている。今後の路線バスやコミュニティバスをどうしていくかという全庁的な検討が始まっている。

2点目は、コミュニティバスの検討会についても2年に1回アンケートを実施し、路線数が減ったため乗らなくなったということも市としては把握している。市として今のバスの在り方を見直すことや、新しい仕組みを作るためには、バスに乗れなくなった方々がどのように買い物に行き、本当はどのような支援を望んでいるのかといった、もう一段深い、生活に密着した市民のニーズのデータが必要になってくる。そこで生きてくるのが前回会議で提案のあった、全世帯向けと特定層向けに分けて調査するといったアイデア。市民のニーズを多角的に拾い上げる手法として非常に良いアイデアと感じる。皆様の思いを形にするための第一歩として、アンケートについて一緒に考えていければと思っている。よろしくお願いします。

(委員) 大変ありがたいご意見。今後の我々の検討も心強さを感じる。市の方でも色々考えてくださっていると感じた。

(2) 移動支援に関する地域アンケートについて

内容別紙（地域における移動支援実状把握アンケート調査、アンケートスケジュール案、依頼文書、アンケート用紙）をもとに説明。

(委員)

アンケート内容の中身を固めたい。目的に沿った内容となっているか、この前まで検討してきた内容からこの内容で十分かというところを見てもらい、ご意見いただきたい。“VI Q11 利用したい支援”で、コミュニティバスについて記載がないが、例えば本数が増えれば利用したい、もっと充実すればコミュニティバスが良い等の意見を入れなくて良いのか。

(委員)

VIにコミュニティバスも入れる場合どのような質問にするか？

(委員)

“コミュニティバスが充実した場合”と入れるのはどうか？

(委員長)

Q6.Q7でコミュニティバスについては聞いているので、あえて入れると混乱するかもしれない。このままで良いのでは。単純化した方が答えやすい。

(委員)

もし入れるならQ7にそういった項目を増やしてはどうか。

(委員) Q7はコミュニティバスをどのように捉えているかという事を聞きたいので、そこに増やすのはどうか。

(委員)

Q12は、今後できたら利用したいかということをお聞きしていると思う。交通インフラは予約なしで乗りたい時に乗れることが大事だと思っているので、コミュニティバスは思い立った時に乗れるのが良い。その他という項目もあるため、そういった思いがあれば書いてくれるとありがたいが。

(委員)

どうしてもコミュニティバスは使いにくいという印象があり、こういった内容になってしまった。ある程度自由に利用できるコミュニティバスであれば確かに良いと思う。しかし、一般企業が運営している公共交通との兼ね合いも出てくる。一般企業が運営しているバスに引けを取らないような本数やルートが設定されているのであれば利用価値はある。しかし難しいところではあると思う。

(委員長) コミュニティバスそのものは高齢者だけでなく一般の人でも使えるので主旨が全く違う。

(委員)

コミュニティバスは基本的には路線バスが走っていないところを運営するというのが前提にあるため、それを知らない人がアンケートに答えるのは難しいかもしれない。コミュニティバスの本来の目的をどれだけの人知っているかという話になる。

(委員)

VとVIにわけず、“移動に関すること”として、その中で移動に関する困りごと、利用したい支援について聞くのはどうか。公共交通とは別で福祉的観点から聞いているとすれば良いのでは。

(委員)

なるほど。こういうことに困って外出を控えているので、今後こういったサービスを使いたいという流れにすれば良いのか。そうするとコミュニティバスの充実に関しても含まれてくる。

(委員)

しかし、それではコミュニティバスだけでなく公共交通に関しても意見が出てくるかもしれない。例えば内野台でいうと公共交通のバスはあるが本数が減っている。路線バスの充実にも話が広がってしまう。行政に対しての要望も記入されてしまう可能性があるため、既存の交通システムではなく、新たな仕組みとした方が絞りやすいと思う。タクシーを安くしてほしい等の意見が出てきても困ってしまう。

(委員)

Q6.7でいきなりコミュニティバスと具体的な名前が出ているが、その後は具体的な名前が出てこないのが混乱するのかもしれない。

(委員長) コミュニティバスの充実がこの協議体の目的ではないので、新たなシステムの方向に誘導する方が良い。

(委員) コミュニティバスは公共交通としてあるけれども、それについてどう思っているのかということを確認しておかないと、我々の支援に関してズレが生じる可能性があるため、あえて項目を作っている。

(委員) 移動を福祉として考えるか、社会のインフラとして考えるかという話にもなってくる。

(委員) 我々が考えているのは、福祉の観点から困っている人に対してどう手助けをするかということ。そういった観点からするとコミュニティバスは利用しにくいシステムであるため、もっと利用しやすい支援策はないかというのが我々の検討しているところである。地域の方がどういうところに困って、どういった支援を求めているのかをアンケートの中で引き出したい。

(委員) 高齢者の外出支援については、交通インフラということに加えて、介護予防や健康寿命の延伸につながる重要なことである。今後も市の立場として、福祉と交通をつなげていければと思っている。

(委員) 行政から見てこのアンケートはどう思うか？

(行政) とても良い案だと思う。担い手を見つけられるような質問もあり、ニーズ把握と支援者の仲間集めと、必要な項目は入っている。

(委員) ではアンケートの内容については、クエスチョンの番号の修正と、V、VIをまとめるといったところで良さそうか？

(事務局) 住民の立場で今考えていたが、先程も話に出た、コミュニティバスというワードが気になる。おそらく会長をはじめ委員の中にはコミュニティバスに関わっている方がいるためよくご存じだと思うが、一般の人はあまり知らないかもしれない。Q7について聞かれても、そのこと自体説明がないとわからないという人も多くいるのではないかと感じる。

(委員) このアンケートを取ることによって、コミュニティバスを知らない、使ったことがないという現実が浮き彫りになるのではないかと思います、あえて説明等は記載していない。これにより認知度もわかってくるのではないかと思います。知っているが利用を考えたことがない等その他で意見が出てくれば、今後コミュニティバスをどうしていくかという検討材料にもなると思う。

(事務局) 分かりました。

(委員長) 今後コミュニティバスが発展していく可能性もある。とりあえず認知度が確認できれば良いと思う。自治会への依頼書について、実施主体は協議体なので、名前は協議体だけにしてもらいたい。アンケートのスケジュールは、年度末でも人も変わるため依頼は4月以降の方が良い。3月中に趣旨を説明する程度は可能かもしれない。タイミングは良いと思うが、配布するとなると4月以降でないと難しい。段取りはこの順番で問題ないと思う。

(委員) では、早くて4月以降の実施としましょう。

(事務局) 現在の自治会の両会長が協議体に参加し、主旨や必要性も理解していただけで間に動けると良いと考えていたが、時期的に難しいということは理解した。ぜひ次の会長に伝えていただけるとありがたい。

(委員長) 総会で説明はできる。引継ぎは、自治会長までは話ができるが末端までというとなかなか難しい。末端まで話がいけないとアンケートは中々実施ができない。

(委員) 回答の対象は？Q4は夫婦のみだと、1人は返納して1人は返納していないということも想定される。

(委員) 個人でアンケートを取りたいが実際難しいので世帯で回答してもらえないと思う。

(委員) 当初考えていたのはまず全世帯配布して、世帯の実状として聞いてみるということ。そうすると本当に困っている人の意見が吸収できない可能性があるため、個別にシニアクラブやサロンでの聞き取りや民生委員にも協力を得ることを考えていた。

(行政) 紙の色分けをしてアンケートを取ると言う意見が前回出ていたが、素晴らしいと思う。

(委員) 確かに世帯で答えたものと直接聞いたものと色分けをしておけばわかりやすい。

(委員) 世帯で行う方も、できるだけ世帯主が答えてもらうように文言を入れてはどうか。それができれば統一されて分かりやすいかもしれない。

(委員) 確かなのは、シニアクラブならその会長会で配布するというやり方。全戸配布は班長に負担がある。

(委員) 全戸配布するのであれば、シニアクラブ等とかぶってしまう可能性もある。しかしそれでもどちらも行う方が、丁寧に聞き取りができ、より信頼性が高く有効な回答になると思う。全戸配布、個別のヒヤリングを並行して行う方が良い。

(委員) それでは、事務局で今回出た意見を修正し、おおまかなスケジュールで進めるためにどこを詰める必要があるのか検討してもらいたい。具体的なスケジュールはまた自治会長に確認する。

(委員長) 自治会長と民生委員で3月に友愛訪問をするため、その時に1人暮らしの高齢者にアンケートを取る事はできる。4月以降になると訪問するタイミングがなくなる。総会もあるため、早めに依頼文書があると良い。

(事務局) 早めに確認する。アンケートにはQRコードもつける予定。そちらの準備も進めていく。

(委員) 自治会への依頼文書、アンケートの中身はほぼ固まっているので、動けるところは動くという形で進めていく。その他、細かい項目について、ここは決めておかないとだめというところはあるか？

(委員) 集計の方法は？

(事務局) 関係機関への依頼を考えている。来年度の会議の日程については改めて調整し、連絡する。

(事務局) 移動支援の保険について情報提供。

損保ジャパン「地域の移動を支える保険」について、保険料の改定があり来年度は時間単位で加入できるような仕組みに変わる。4、5時間の支援であれば保険料が安価になる。単価は調整中らしいが、これから支援しやすくなると思う。

5 今後の見通し・

必要な対応

- ・地域の方がどういうところに困って、どういった支援を求めているのかをアンケートを用いて把握できるように、スケジュールや集計方法など引き続き検討を進める。